○ Hello everyone,
I am Nagaoka Keiko, Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan.
（皆さん、こんにちは。日本の文部科学大臣の永岡桂子です。）

○エディンバラ国際文化サミットの開催をお慶び申し上げます。ナディーン・ドリース英国デジタル・文化・メディア・スポーツ大臣、アンガス・ロバートソン・スコットランド憲法・対外関係・文化大臣、アリソン・ジョンストーン・スコットランド議会議長、ジョナサン・ミルズ・エディンバラ国際文化サミットディレクターをはじめ、本サミットの開催に御尽力された皆様に心より感謝申し上げます。

○また、例年この時期に開催される、歴史ある夏の文化の祭典であるエディンバラ国際フェスティバルは今回７５周年を迎えられるとのこと、併せてお祝い申し上げます。今回は日程が合わず、私は参加できませんが、ビデオメッセージという形で、「文化と教育」というテーマに関し、日本における最近の動きをご紹介したいと思います。

【芸術教育の文化庁への移管】
○まず、文部科学省は文化と教育の両方を所管しています。学校における芸術教育に関する業務は、以前は教育担当部局において行っていましたが、2018 年の法改正により、文化を所管する文化庁に移管されました。文化庁は文部科学省の外局であり、文化政策を専門的に扱う組織です。これにより、文化庁のもつ芸術文化振興施策の知見や芸術関係者等のネットワークを学校教育に生かすことが可能になり、学校教育における人材育成からトップレベルの芸術家の育成までの一体

的な施策の展開が図られるようになりました。

【子供の文化芸術鑑賞・体験機会の確保】

〇次に、コロナ禍においても子供たちが文化芸術に触れる機会を確保するための取組についてです。2020 年以降、新型コロナウイルス感染症の影響下で、学校の内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験をする機会が大幅に減ってしまいました。今では状況はずいぶん改善されましたが、まだコロナ前と同じというわけにはいきません。

〇政府としては、様々な場所で子供たちが伝統文化や実演芸術などの多様な芸術を鑑賞・体験する機会を取り戻せるよう、学校への文化芸術団体による実演芸術の巡回公演や芸術家等の派遣の実施、劇場等において子供たちが無料で舞台芸術を鑑賞する機会の提供といった措置を講じています。これにより、ポストコロナ・ウィズコロナの時代であっても、子供たちが自身の学校や地域にある劇場等で芸術に親しみ、感性や想像力を大きく働かせる機会を持つことができます。

【芸術教育における ICT 活用】

〇最後に、学校での芸術系科目における ICT 活用についてです。日本政府は、近年「GIGA スクール構想」を掲げ、児童生徒の１人１台端末と高速ネットワークを全国すべての地域に整備しました。その結果、現時点において重点的に取り組むべき課題は、整備から活用に移ってきています。ICT を活用した教育が日本全国の学校で行われるよう、文部科学省内の特設チームを中心に強力に支援しています。

〇音楽や美術といった芸術系科目でも ICT 利用は進んでいます。

たとえば、オンライン上でアーティストの授業を受けたり、学校から離れた博物館の芸術作品を鑑賞したりする例も出ています。また、端末を活用し、写真や動画などを用いて芸術表現の幅を広げる取組も積極的に行われています。さらに、生徒の作品や制作の過程をタブレットで撮影し、学習評価に活用することも可能になっています。

〇文部科学省では、教育現場での参考に資するよう、こうした芸術系科目ならではのICT活用について、ホームページに解説動画や資料を提供しています。

【まとめ】

〇新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の中で、私たちは人の心を癒し、勇気づける「文化芸術の力」を改めて認識しました。文化芸術は、子供たちが感性や想像力を豊かに働かせて社会的な価値を創り出す創造性を育み、また仲間たちと共に学ぶことにより豊かな人間性を養う上でも、極めて重要な意味を持っています。日本としても、引き続き文化芸術活動の再開・継続・発展を力強く支援するとともに、子供たちの文化芸術体験の機会の確保と芸術教育の充実につとめてまいります。

〇本日のエディンバラ国際文化サミットでの議論が、世界中の文化のありかた、特にポストコロナ・ウィズコロナの時代の文化と教育に関する新たなチャレンジに、明確な方向性と指針を提示する機会となることを期待しています。

御清聴ありがとうございました。

（了）